



優れたものづくり日本を活かす戦略と体制

令和3年度における活動実績・成果の概要

「D5 ものづくり」プロジェクトは、2017年より、価値創造に繋げるためのものづくりの戦略と体制および教育方法はいかにあるべきかを明らかにする。その上で、大学研究者・学生・企業技術者らが未来の産業創造とものづくり経営の変革に向かうための方法を策定し、協働企業とともにその実現を目指す下記の3つの取組を行ってきた。

- (1) 産学連携インフラの構築
- (2) 急速な環境変化に対応できる技術・製品戦略と体制に関する研究
- (3) 前二項を活用して実施する“ものづくり戦略人材の教育（PBL教育”

D5 グランドデザインの提案時(2017年)において、図1に記載するマイルストーンを立案し、5年後（令和3年度）の1つの姿として、「産官学民共創エコシステムの場形成プラットフォーム構築」を掲げていた。

令和3年度における活動実績・成果

①文科省・次世代アントレプレナー育成事業（EDGE-NEXT；5年間；教育助成金；総額約4億円）の6大学コンソーシアムの主幹校として、学部生～院生～教員・研究者～社会人に対して、5年目（最終年；R3）の起業教育活動（前項(2)～(3)）を実施、令和4年8月30日に最終報告審査を受けた。

②JST 社会還元加速プログラム（SCORE）大学推進型（拠点都市環境整備型）事業（令和2年度補正予算による経費1.7億円（直接費）+間接費30%；令和3年度1年間）の採択を受け、東北地域6県+新潟県の国公立大学9校の主幹校として、前項(1)～(3)を実施し、令和4年8月24日に完了報告審査を受けた。

③その他取組み

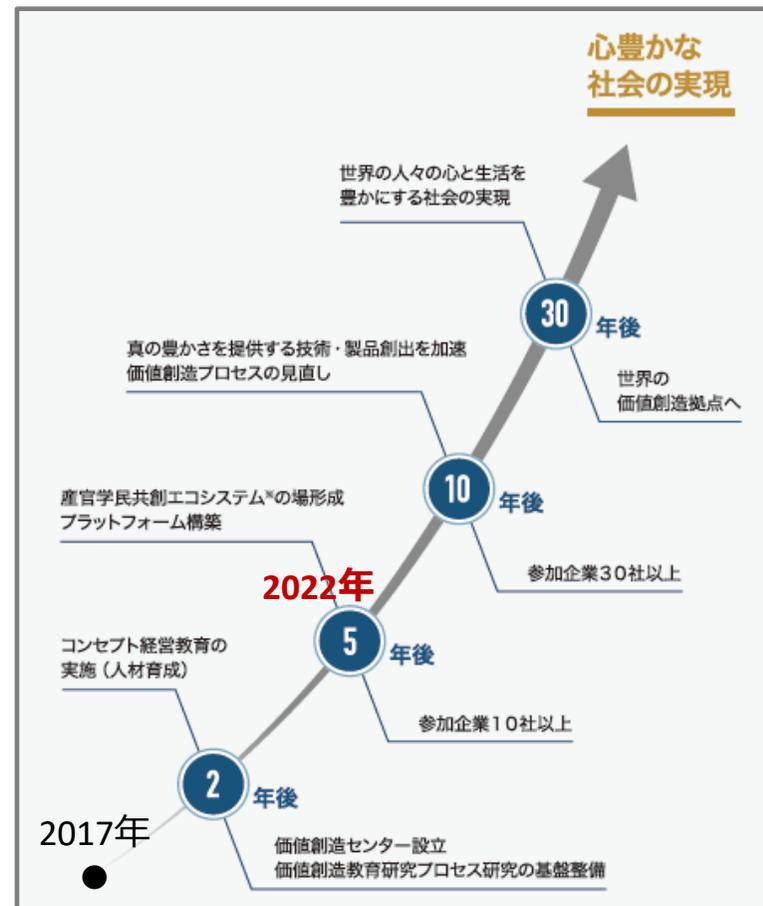


図1 D5 グランドデザイン（2017年）から抜粋
(D5: 優れたものづくり日本を活かす製品コンセプトデザインと経営戦略)

優れたものづくり日本を活かす戦略と体制

令和3年度における活動実績・成果の概要

本年度（R3）は、当初マイルストーン（図1）に準じ、「産官学民共創エコシステムの場形成プラットフォーム構築」を目指した。具体的には、下記①～⑤の活動実績により、大学をコアとする共創エコシステムの場形成をより強固に構築することができた。

①次世代アントレプレナー育成事業（EDGE-NEXT）¹⁾（目標；前項(2)～(3)）

本事業コース5年目（R3）の受講者数は727名、大学独自運営で実施するアントレ教育関連授業の受講者数は1,424名、合計で2151名の受講者数であった。さらに、東北大学のEDGE-NEXT事業5年目（R3）は、図2に示すような世界トップレベルの「3軸教育コア」スパイラル化を目指したアントレ育成拠点の姿が顕現でき文科省等に報告した。また、下記②のSCORE事業の採択により、1)ギャップファンド(GF)支援による起業家育成、2)指導者層・支援人材育成、3)起業環境の整備で、前項(1)「産学連携インフラの構築」を強化した。大学を中心にした産官学民共創エコシステムの場形成プラットフォームが強化できた。

②JST 社会還元加速プログラム（SCORE）大学推進型（拠点都市環境整備型）採択（目標；前項(1)～(3)）

本事業（2021年3月23日；ニュースリリース²⁾；R2年度補正予算；1年間）を受託、“東北地域”（+新潟県）のエコシステム・9大学参加の産官学民共創プラットフォームを形成した。実績は、前記1)のGF支援の起業家育成で課題24件を採択、前記2)の指導者／支援人材育成数は予定15名→29名に拡大、前記3)の起業環境整備では、公設試験センター、産総研、試作企業等を巻き込んだ整備を実施、前記4)の拠点都市エコシステムの構築では仙台スタートアップ・エコシステム推進協議会の会員拡大で強化した。

③その他（卓越大学院プログラムや工学教育院・国際戦略講座等）の取組を含め、図3のアントレ教育の目指す姿を明確化できた。今後は、教育の質の更なる向上と受講者層の裾野拡大（小中高校生等へ）&エコシステム形成の強化に挑戦します。

（一例）（世界トップレベル）構築した3軸教育コア・スパイラル化によるアントレ育成拠点形成

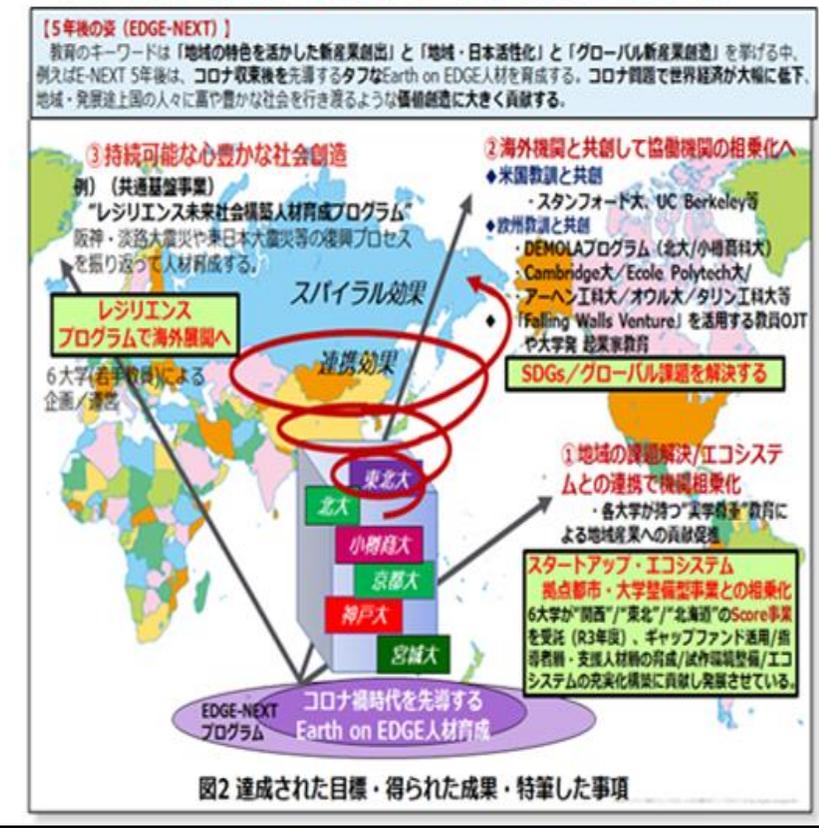


図2 東北大学のアントレ教育の受講者推移

関連ホームページ

- 1) <https://edge-next.eng.tohoku.ac.jp/>
- 2) <https://michinoku-academia-startup.jp/faculty/>

優れたものづくり日本を活かす戦略と体制

令和3年度における活動実績・成果の概要



図3 目指すアントレプレナーシップ教育/エコシステム (絵姿)